

皮革講習会



東京会場



稻次講師

革・革製品の知識および日本エコレザーを学ぶ

NPO法人日本皮革技術協会では「革・革製品の知識および日本エコレザーを学ぶ」をテーマに、10～11月にかけて浜松・盛岡・東京・大阪で計4回の無料講習会を実施した。

定員40名のすべての会場が満席となる盛況。座学での会場が満席ぶだけでなく、革や製品に触って体感する講座もあり、充実した内容だった。

聴いて、見て、触つて 体感する5講座

圭・岩手製靴社長) 以下、⑤を取り上げて要約する。

安心・安全の基準は さらに厳しくなる

エコレザーは「日本エコレザーベース」に適合し、革の資源、製造、流通、消費、廃棄、リサイクルなど

全般において環境負荷低減に配慮し、環境面への影響が少ないと認められる革材料のことと定義されており、

「1. 天然皮革である」

「2. 発がん性染料を使用していない」

「3. 有害化合物の検査をしている」

「4. 臭気が基準値以下」

「5. 適切に管理された工場で作られた素材」

「6. 染色摩擦堅ろう度は基準値以上」

- ①「革の製造方法と特徴を学ぶ」
講師／杉田正見・協会理事
- ②「仕上げの種類と革の見方を学ぶ」
講師／中村泰久・TFCジャパン社長
- ③「各種なめし革・動物種・仕上げ革・主な事故事例などを体感的に学ぶ」
講師／杉田正見・中村泰久・中村蔚、山本圭二・盛岡のみ
- ④「革の特性(構造、水分、熱)と取扱方法との関係を学ぶ」
講師／中村泰久・協会理事
- ⑤「日本エコレザーとは何かを学ぶ」
講師／稻次俊敬・日本皮革研究所 チーフテクニカルアドバイザー(盛岡会場のみ)「靴の製造方法と特徴を学ぶ」
講師／山本



触って確かめるワークショップ(杉田講師)



触って確かめるワークショップ(中泰久講師)

日本エコレザーやEco Leatherを取得することには、「品質表示タグ」に書かれている原産国や素材などの裏付けになり、有害化学物質の基準値をクリアした安心安全な革であるという証明にもなる。革製品に対する環境ラベルとしては、1994年にオランダ・EU統合ラベルが作られ

たのが始まり。1年後の95年に、SGラベルや繊維関係の基準であるエコテックススタンダードが誕生した。そして、02年には中国でも本革エコマーク基準が発表されるなど、世界では革製品の環境・人体への安全性が意識されるようになつた。昨今では、さらに検査が厳しくなるといふ話も出てきている。

成功例に学ぶ 継続的に取り組む企業の

このした中、日本皮革技術協会が中心となつて2006年に策定して、認証システムを確立し、09年からエコレザー基準(JECS)の認定が始つた。当協会で国内産・海外産を問わずに無作為に調査

したところ、数量による誤差や年度による増減はあるものの、エコレザーの適合率はだいたい半分以下といったところだつた。特に湿潤摩擦堅ろう度(色落ち)や溶出六価クロム量での不適合が多いといつ結果が出てしる。

日本エコレザーを取得するメリットは多い。公的機関では、同じ商品であるならば環境負荷が小さい製品やサービスを優先して購入するというグリーン購入法が存在する。このほか、戦略的にエコレザーを採用する会社も増えている。医療用介護用品としてのムートンシーツや、大手アパレルブランドの高級レザー・ウエアなどがその例。継続的にしっかりと取り組んでいる企業での成功例が目立つてしる。